

小学校の先生になりました。わずか十六歳の四郎先生の月給は一円でした。

小学生たちは喜びました。年齢もあまりちがわず、からだも小がらな四郎先生にすぐなついて、いっしょに勉強したり、遊んだりしました。その一生を通じて、四郎は子どもと遊ぶのが大好きでした。

四郎は、こうして勉強を教える立場たちばになってみると、自分の勉強がまだたりないと思うようになりました。小学生たちが帰った後の学校で、四郎は、校長先生からいろいろと教えてもらうようになり、ますます勉強への希望がもえてきました。

正月から降りつづいた雪が、ようやく晴れたある日、四郎は、同級生で仲のよかった佐藤与四郎よしろが、先ぱいの竹村庄たけむら八やをたよって上京する、という話をききました。

へ行きたい、おれも、東京へ行きたい。もつと勉強するには、どうしても、